



第14回全日本高校模擬国連大会報告

11月14日（土）15日（日）に渡り全国高校模擬国連大会が開催されました。今年はコロナ禍の開催となり、感染拡大を防ぐために史上初めてオンライン開催となりました。当初は対面会議を想定していたため、3密を避けることを目的として出場校も例年より少ない54校に絞られ、同一高校からは2チームエントリーできますが出場できるのは1チームまでという厳しい条件が課されました。本校からはエントリーした2チームから高2池田隼君、高1中村謙太君が選考を通過して全国大会へ出場を果たしました。慣れないオンライン会議という環境で「宇宙利用」という議題に挑戦しました。両名から寄稿してもらいましたのでご覧いただければ幸いです。

高校2年4組 池田 隼

11月14、15日に開催された全日本高校模擬国連大会に参加いたしました。模擬国連とは、高校生が各国の大使の立場で国連会議に参加し、国益を守りつつ交渉し、声明となる決議文書を提出する大会です。

本会議では、全国から選考を通過したペア、27カ国がオンラインで集い、活発な議論を交わしました。今回の議題は、宇宙利用、特に宇宙開発途上国への支援や資源の管理のあり方、持続可能な開発への応用についてでした。地学部天文班に所属している私にとっては偶然関心の深い分野で、知識も人並み以上にはあるつもりでしたが、今までに似た議題の会議に参加したことがなく、政治的な視点から見るのは初めての試みだったため、初めて気付かされることが多くありました。

さて、私たちは南米のアルゼンチンを担当しました。南米内では経済規模の比較的大きな国ですが、宇宙利用に関しては後進国としての立場で議論しました。先進国である日本で得られる情報からは、“民間企業も交えた自由な宇宙開発”ということポジティブに捉えられると思います。しかし途上国側から見ると、それはアメリカなど既に技術を有する先進国による資源の先取りとなります。衛星保有国は50カ国強、ロケット製造能力を有する国は9カ国しかない現状、このような宇宙開発後進国には特別な配慮が必要と広く合意されていますが、具体的にどのように彼等の国益を守るのかは未だ合意形成に至っていません。この他にも、スペースデブリ（宇宙ごみ）の問題など、技術が着々と進歩しているにも関わらず、国際社会はまだそれらを平和的に受け入れる準備ができていないということを感じました。

一方で、日本の民間企業ispaceが「Society 5.0に次ぐPlanet 6.0」と掲げたように、世界人口が増え続け、資源の持続可能性が危ぶまれる今、宇宙産業は社会構造を著しく変化させる可能性を秘めています。主催団体の方が会議後も仰っていましたが、今後このようなより高度な科学技術が、私たちの生活レベルで更なる変化をもたらすようになることは、必定のように思います。そのため、この変化に呑まれないためにも、文系理系を問わず誰もが、先端技術の動向を科学、政治、経済などから多角的に注視しなければいけません。これを身をもって体感できた、素晴らしい経験をさせていただきました。

高校1年6組 中村 謙太

まずは、今回の全国大会出場に当たり書類選考の段階からお手伝いいただきました多くの先生方に感謝したいと思います。

今回、私たちはアルゼンチンの国連大使として、宇宙利用について話し合う国連会議に参加しました。アルゼンチンは宇宙開発に関しては人工衛星打ち上げ能力があるものの、ロケット打ち上げ能力に関してはない国です。今回の会議では、先進国と発展途上国の間をつなぎ、より多くの国が合意できるような決議案作成を作成できると考えました。

初日は先進国、中間国、発展途上国で分けることが提案され、発展途上国としてグループを形成しました。グループ内の意見をまとめるのに苦労しつつも、一日目の最後に作業文書を提出しました。一日目の最後に提出されたほかのグループの文書をその夜にしっかり分析し、二日目に備えました。

二日目は先進国、中間国、アジアを中心とする発展途上国、アルゼンチンが所属する発展途上国の四つのグループに分かれてそのグループ間での話し合いを中心に行いました。アルゼンチンとしては発展途上国の間で意見を取りまとめるのが先決だと思い、発展途上国間で意見のすり合わせを行いました。

結果としてグループ内で意見が分裂し、スポンサーが足りなくなってしまう決議案作成には至りませんでした。

今年は、例年と違いオンラインでの開催や参加国の減少など、イレギュラーな会議となりました。対面での開催だと起こりづらいようなことが発生し、数年模擬国連をやっている僕でも新鮮な体験となりました。

最後に、お手伝い頂いた先生方にご多忙にもかかわらず、貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございます。



今年は引率教員の見学が許可されなかったため会議中の写真撮影はできませんでした。上記の写真は後日学校で撮影したものです。（向かって左：中村君 同右：池田君）

トビタテ！留学 JAPAN 第 7 期募集開始（現中 3～高 2）

新型コロナウイルス感染拡大が懸念される日々ですが、官民協働プロジェクトであるトビタテ！留学 JAPAN の第 7 期募集が開始されることが文科省より発表されました。現状のまま海外に渡航することには抵抗を感じる方が多数かと思えます。以下、ワークショップも開催されるようですので、プログラムに応募する・しないは別として情報収集の意味でワークショップに参加してみるのもよいかもしれません。制度の詳細はトビタテの公式 HP をご覧ください。

<https://tobitate.mext.go.jp/hs/program/>

ワークショップ「留学×自分軸」（仮題）

※対象者：第 7 期に応募を考えている中高生

2020 年 12 月 13 日（日） ①10 時 30 分～12 時 30 分 ②15 時～17 時

2020 年 12 月 28 日（月） ①10 時 30 分～12 時 30 分 ②15 時～17 時

※教職員の方の見学可能

※各回の内容は同様

【形式】オンライン（ZOOM）

※登録いただいた方に当日の URL をお送りいたします。

1 2 月 2 8 日分のみ現在受付中。1 2 月 2 4 日 1 2 時が申し込み締め切り期限。

第 7 期募集説明会の詳細・お申込みはこちらから

<https://tobitate.mext.go.jp/news/detail.html?id=249>

今後のスケジュールについて（予定）

[新高校 1 年生コース以外]

- ・応募期間：2021 年 1 月 4 日（月）～1 月 29 日（金）17 時
- ・面接審査：2021 年 3 月下旬（オンライン実施）
- ・採否結果：2021 年 4 月下旬以降

[新高校 1 年生コース]

- ・応募期間：2021 年 4 月 1 日（木）～4 月 20 日（火）17 時
- ・採否結果：2021 年 5 月中旬以降



トビタテ!
留学 JAPAN

柳井正財団給付型海外大学奨学金プログラム（合格型）受付開始（高3生対象）

ユニクロを展開するファーストリテイリング代表取締役である柳井正氏が日本社会の発展に寄与することを目的に創設された財団です。この奨学金はグローバルな知見を持って各分野をリードし日本社会の発展に貢献しうる資質を持ち、財団が認める米国、英国の大学学士課程に進学する学生に支給される給付型奨学金（返済不要）です。米国大学の場合は\$95,000×4年、英国大学の場合は£65,000×3年となり、学費・寮費・保険料・学習、研究、生活支援金が含まれます。

応募受付期間：2020年12月18日～2021年2月14日

同一高校からの応募人数の上限はありません。

応募条件（下記の条件以外にもありますので詳細は公式HPでご確認下さい）

- ①日本国籍を有する者
- ②国内の他の給付型奨学金を受給していない者
- ③原則20歳以下で2020年9月以降に高校を卒業し、2021年9月の入学を目指す者
- ④本奨学金プログラム応募時点で下記のスコアを有する者
語学→原則 TOEFL または IELTS
学力→原則 SAT、ACT、IB 等 *スコアを保持していなくても応募可能
- ⑤応募者の世帯構成員による家計支持者の所得が基準を満たす者

～2021年4月3日

財団指定の大学に合格が確定した後に応募フォームに入力

2021年4月9日・10日 一次面接

2021年4月21日・23日 最終面接

2021年4月30日まで 合否発表

詳細は下記 URL をご覧下さい。

<https://www.yanaitadashi-foundation.or.jp>

*高2以下の海外大学進学を視野に入れている生徒諸君もこの奨学金の存在は励みになるものだと思います。TOEFL や SAT などをごどのようなタイミングで受験するのかなどを考えておく必要があります。本校における日々の学習活動を積み重ねていくことに加えて、部活動などを通じて校外での発表や受賞歴などがあれば自分をアピールすることにつながります。自分はこのようにして世界に貢献したいという明確なビジョンを持ちながら頑張る生徒諸君に是非とも挑戦してほしいと願っています。

グローバル通信91号でご紹介した自動運転に関するMITとの企画についてまだまだ反応が十分ではありません。どうぞ積極的に活用して下さい。